

## 自己評価報告書

平成23年3月30日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20520209

研究課題名（和文） モダニスト四重奏文学の共時的分析

研究課題名（英文） Synchronic Analyses of Modernist Musico-Literary Quartets

## 研究代表者

馬籠 清子 (MAGOME KIYOKO)

筑波大学・大学院人文社会科学研究科・講師

研究者番号：60463816

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学

キーワード：モダニスト文学・モダニスト音楽・四重奏

## 1. 研究計画の概要

世界各地で同時発生した「モダニスト四重奏文学」を、社会的・歴史的コンテクストに注目しながら共時的に分析する。古代ギリシャの時代から、世界観・宇宙観と密接な関わりを持ってきた「4」という数字が、なぜ、モダニズムの時代に世界各地の音楽と文学の中で「四重奏」という形をとって爆発的に復活したのかを深く掘り下げていく。

## 2. 研究の進捗状況

この研究の出発点は、2008年にアメリカで出版した通時的研究書 *The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint* である。この中で扱った Musico-Literary Studies という理論を土台に、今度は共時的な視点からモダニスト四重奏文学に注目してきた。この3年間は、前出の研究書の中で扱った理論や作家・作曲家・作品についてのさらなる分析を進めつつ、新たに研究対象として加えた Jean Rhys の *Quartet* や、Lawrence Durrell の *The Alexandria Quartet*、Virginia Woolf の “The String Quartet” などの作品を読み込んできた。毎年、各段階の研究成果を論文や学会発表という形で示している。例えば、Durrell 作品についての分析は、これまで取り組んできた Musico-Literary Studies や C. G. Jung の “One and Four” という考え、Vladimir Nabokov の *Quartet* や T. S. Eliot の *Four Quartets* などについての研究成果と効果的に関連付けながら、「モダニスト四重奏文学」というコンテクストの中で論文や学会発表にしてきた。海外での研究書・論文の出版や国際学会での発表など、なるべく厳し

い審査基準を選んで研究発表を進めているので、研究の各段階の積み重ねはしっかりできているのではないかと思う。また、毎年アメリカの図書館に出張し、資料収集も行っている。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。申請書で計画した通り、毎年、研究書・論文の出版や学会発表を積み重ねることができているため。また、2011年度中に学術誌に応募して査読を受ける予定の論文も2本執筆中である。

## 4. 今後の研究の推進方策

今まで通り、「モダニスト四重奏文学」という点で重要な作家・作品の分析を進めて発表していく。今現在取り組んでいるのは、Durrell と Richard Powers の作品にまつわる2本の論文の執筆である。その後は、Thomas Mann の *Doctor Faustus* の分析に集中する予定。発表方法については、特に英語論文という形にこだわり、この研究課題の最終年度には、少しずつ積み重ねた成果をアメリカで2冊目の研究書として出版できるよう、プロポーザル等の準備をしていく。

## 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

(1) Magome, Kiyoko. “Democracy Realized through Music and Its Collaboration with Literature.” *Soundings: An Interdisciplinary Journal* 92 (3-4): 2010, 331-46. 単著. [米国・査読付]

(2) Magome, Kiyoko. "Transition from Modernist to Postmodernist Quartets: Lawrence Durrell's and Vladimir Nabokov's Musico-Literary Quartets." *Notes on Contemporary Literature* 39 (5): 2009, 7-9. 単著. [米国・査読付]

(3) 馬籠清子「音楽は、その姉妹である文学をどう刺激するか?」『筑波英語教育：創刊三十周年記念特別号』130～34頁、2009年。単著。[査読なし]

(4) 馬籠清子「文学が音楽を通して体験させるアメリカ資本主義: William Gaddis が作る聴覚的ディスコース」『日本英文学会第80回大会 Proceedings』158～60頁、2008年。単著。[査読なし]

[学会発表] (計3件)

(1) Magome, Kiyoko. "Lawrence Durrell's Alexandria in the Discursive Structure of 'One and Four'." Presented at the International Lawrence Durrell Society Conference, New Orleans, LA, July 8, 2010.

(2) 馬籠清子「音楽は、その姉妹である文学をどう刺激するか?」(筑波英語教育学会第28回大会)、2008年6月21日、筑波大学。

(3) 馬籠清子「文学が音楽を通して体験させるアメリカ資本主義」(日本英文学会第80回全国大会 SYMPOSIA 第7部門: 資本主義とアメリカ文学)、2008年5月25日、広島大学。

[図書] (計1件)

(1) Magome, Kiyoko. *The Influence of Music on American Literature Since 1890: A History of Aesthetic Counterpoint*. Lewiston: The Edwin Mellen Press, 2008. 1-282. [米国・査読付]